

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 9月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205323		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム鈴が峰		
所在地	広島市佐伯区五日市町皆賀104番地27 (電話) 082-943-8888		
自己評価作成日	令和7年8月11日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年8月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ご利用者個々に合わせた誕生日会・毎月のご家族へのお便り・写真郵送・併設施設で実施される行事への参加および交流・緑に囲まれた環境で、瀬戸内海の島々の景色を楽しみながら行う散歩・ノーリフティングケアによる利用者支援
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は担当ユニットだけでなく普段から、他ユニットのケアにも関わり、夜間や緊急時にもスムーズに協力しあい、利用者は日中、自由にユニット間を行き来できる体制となっている。また1階にある和風の誂えの交流スペースで、地域住民と共に認知症カフェに参加する等、複合施設内に多様な居場所作りを工夫している。外部からの移動販売・パン販売・ふれあい動物園など併設の特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービスの利用者と共に楽しみ、災害避難訓練も合同で行う等、閉塞感のない生活環境となっている。共有空間の壁に貼る創作時は、懐かしい水族館の話をしながらかナを作り、利用者が集まって朝顔の花の位置を相談しながら糊で貼るなど、穏やかで豊かな日々が送れるよう支援している。</p>

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に職員全体で唱和し共有することで、理念の実践に向け日々努めている。	朝礼時に事業所理念である「グループホーム鈴が峰全体3Jの約束」を唱和し共有して意識付けている。更に年間の個人目標を決め、施設長やリーダーと共に達成度の進捗状況を1年に2回、確認し、理念「慈愛に満ちた、自由で安心、笑顔あふれる充実した毎日」の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員、地域包括支援センターの職員に運営推進会議へ参加していただきグループホームの様子を報告しており、その都度講評をしてもらっている。	地域の秋祭りの神輿は、施設1階の交流スペースで準備し、スタートする事になっており、利用者は3階事業所ベランダから見学している。交流スペースで特別養護老人ホームの相談員が中心となり認知症カフェを行い、グループホームの利用者5名が参加している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	当施設主催の認知症カフェなどで認知症理解や支援について発信しており、グループホームご入居者様のご家族様も参加しておられる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、行事報告・ご利用者個々の近況報告についての意見交換等を行い、サービスの向上に努めている。	会議には、複数の家族、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、スライドにて利用者の様子、ノーリフティングケアの取り組みを伝えている。民生委員から带状疱疹ワクチン接種について情報提供があり、家族から活発な質問や意見交換が行われ、検討後、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員の協力により、運営推進会議に参加して頂くことで、情報交換や相談を行い、行政との連携に努めている。	介護保険法改定時など法人が市町担当者に問い合わせ等を行っている。内容によっては事業所から各区の担当者に確認を行っている。地域包括支援センターから1階地域スペースで行われる認知症カフェや認知症サポーター養成講座の情報や、熱中症注意喚起など得ており、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リーダー会議やスタッフ会議を通じ、職員一人ひとりが身体拘束ゼロの意識を共有している。また、内部研修にも参加し理解を深め、ご利用者の自立支援に努め身体拘束ゼロを維持している。	法人理念「先人方のあゆみに敬意を払う」を根底とし、研修や身体拘束適正化委員会にて拘束の弊害やガイドラインを認識している。ユニット間の往来は日中は自由とし希望があれば1階でコーヒーを飲みながら過ごす等、利用者の生活の場が広がるよう工夫し、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	リーダー会議やスタッフミーティングを通じ、職員一人ひとりが高齢者虐待防止の意識を共有している。また、内部研修を年2回実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については学ぶ機会を持っていないが、施設内研修、外部研修を通じて、機会の確保に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前面接及び契約時は、説明を行い理解をいただいている。また、解約や改定等においても説明を行い理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話連絡、運営推進会議等においてご利用者、ご家族より施設に対するご希望など意見をいただき運営に反映させている。	家族の意見は相談員・リーダーが電話やメールで、或いは運営推進会議で直接、聴いている。多数の意見に対してアセスメント後、次月の会議等で意見の結果を伝える等、利用者本位の丁寧な対応に努め、運営に反映させている。利用者からトイレ折れ戸について意見があり対応した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、事業所のスタッフ会議及び施設全体のリーダー会議を開催し、職員との意見交換を行っている。また、代表者と年2回の個別面談等で意見を聞く機会を設けている。	スタッフ会議では、業務内容や個別ケアの提案、修繕個所の検討などを行っている。重症時の入浴支援として、併設の特別養護老人ホームの特殊浴を活用できるよう話し合い実現している。上長は年2回の個人面談時に、資格取得やスキルアップに関しての希望や意見を聞き、職員育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は上期、下期に目標の設定とその評価を行い、上司との面談を行っている。常にモチベーションを高く持つことができるよう、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修や外部研修（認知症実践者研修など）、施設内研修の受講を積極的に促すとともに、資格の取得についてのサポートについても取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での新任研修、フォローアップ研修、ステップアップ研修等を行い、他事業所と情報交換や交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にご本人からの要望や不安等を確認することで、ご利用者個々に合わせた対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前、見学後の面接にて、ご家族の不安や要望があればできるだけ具体的に確認できるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当事業所のみならず、併設施設の情報も併せて提供することで、ご本人及びご家族にとってより良いサービスの選択をしていただけるよう支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員はご利用者と同じテーブルでタオルたたみ等、一緒に共同作業をしながら対話することで、相互の関係作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時にご家族が知らないご本人の様子やご家族への反応などを報告できるように努めている。また、毎月ご家族にお便り(写真同封)を送り、日頃の様子を報告している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>関係性のある方に会いに来てもらうよう、面会を継続している。(毎日10時から17時まで)</p>	<p>友人と久しぶりに再会する時は、予め状態を伝える事もあり、一緒に過ごす場作りを行い円滑な面会となるよう配慮している。訪問理美容や外部業者の人に一緒に挨拶をする等、馴染みの関係性を大切にしている。サカナの壁飾りを創作する時、昔の水族館を利用者同士が懐かしむ事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席替え等を工夫しながら、ご利用者同士の関係を考慮した対応に努めている。他のご利用者との折り合いがつかない場合や独りを好む方については、個別的な関わりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後についても、併設施設へ入所されたご利用者は、必要に応じてその都度、ご本人及びご家族との相談に応じている。その他、支援が必要な場合は事業所間で情報提供や相談に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフ会議にて、ご利用者及びご家族の意向の確認、共有を行い、ご本人に最適と思われるケアの実施に努めている。	やりたいと思っている事や願いをニーズとして捉え、本人・家族の意向をケース記録にて共有し、ケアプランに繋げている。表出困難な場合は、関わりの中で2択の質問を工夫しながら目の動きや表情などから、本人にとって嫌な事や願いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族よりこれまでの生活歴や現在の生活環境について聞き取りをすることで把握に努めている。昔から大切にされていた物品等も持参されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	少しの体調の変化でも見逃すことがないよう、日々の観察、定時のバイタルチェックを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランの内容について、ご本人様をはじめご家族様等の意見を反映し、一人一人の生活状況に合った計画を適時立案している。</p>	<p>自宅訪問時の情報や本人・家族の要望をもとに関係者が話し合い介護計画を作成している。1年に1回のモニタリングを基本としているが、必要時ケア内容や課題の見直しを行っている。本人の不安や希望に添い、食物繊維が豊富な甘味料にて整腸を試みた例があり、利用者本位の対応に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録、スタッフ間の連絡帳、業務日誌を通じ、全職員での情報の共有を図り、必要であれば介護計画を見直し、サービス提供に取り組んでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>当該事業所のみならず、併設施設の機能も十分に活用することで、ご利用者及びご家族のニーズに応えられるよう、柔軟な対応を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>訪問理美容の活用をはじめ、訪問診療や訪問マッサージ及び訪問移動販売など、施設に来ていただくことで支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>希望があれば継続して入居前のかかりつけ医と関係を保ち、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>今までの主治医、精神科に特化した医療連携医、併設の特別養護老人ホームの委託医との連携を説明し、本人及び家族がかかりつけ医を選択している。他科受診時は家族協力、又は職員が同行し情報を介護に繋げている。体調変化や医療的な内容は、特養の看護師に迅速に相談できる体制となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設施設内の看護職員と連携を図り、体調不良者については相談し、必要であれば近隣の病院へ受診できるよう支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、情報提供書等を用いることでご利用者の詳細な情報を医療機関へ伝えている。入院中は、事業所関係者がご利用者の様子を確認することで、退院後の受入れが円滑に行うことができるよう努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	グループホームとして重度化や終末期に向けて事業所でできることについて説明を行っている。また、入所時にご家族様へ併設の特養と連携をしていることを説明しており、日々ご入居者様の生活状況を相談員間で共有している。	利用開始時に、事業所の方針を伝え、現時点では重度化や終末期に十分なケアや、医療面に対応できる体制となっていない事を説明している。移転時期などは状況や本人と家族の気持ちに添い、入院先・転院先と連携をとりあう等、終末期の支援に努めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	職員間で確認するとともに施設内研修等を通じ、事故発生時や急変時の対応について知識を深めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	併設施設と合同で年2回の避難訓練等を通じ、災害対策の意識づけを行っている。地域の協力により、災害時の避難経路を造設中である。	同敷地の併設施設と合同で、夜間の土砂災害・火災を含めて、防災委員会を中心に避難経路を確認しながら、利用者と共に避難訓練を行っている。自家発電機の整備や業務継続計画に基づき、業者の協力も得て敷地内の施設分として備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけることがないよう、言葉かけなどに配慮している。また個人情報の保護については新人勉強会で意識の向上に努めている。	呼名は「さん」で統一し、言葉かけや世代による価値観に敬意を持って接する事に努め、不適切な対応は指導している。ドリンク表から好みの飲み物を自己決定する場面を工夫している。申し送り時は両扉を閉めプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り自己決定をしていただくよう、理解しやすい説明や声かけを行うことで、日々のコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを大切にし、危険が及ばない範囲で自由に生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣について、可能な方には全てを一任している。その他、ご本人やご家族の希望があれば可能な限り、希望に沿った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	管理栄養士が嗜好調査を行い、ご利用者の好みや食事に対する意見を確認している。	法人施設の厨房から副食と汁物が届き、主食は事業所で炊飯して食事が提供されている。おせち・ひな祭り等の季節食や週2回の朝食パン等、嗜好調査を反映し、メニューを工夫している。職員と建物1階の交流スペースでコーヒーを飲み、イベントとしてソーメン流しを行う等、工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日の食事・水分摂取量を記録し、ご利 用者の状態把握に努めている。また、施 設の管理栄養士と連携をとり、栄養バラ ンスのとれた食事を提供し、急な食事形 態の変更にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。ま た、協力歯科医院に相談することで口腔 内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシート等の活用等により、 ご利用者個々の排泄パターンの把握を 行っている。トイレでの排泄や排泄に向 けた支援に努めている。	その日の排泄状況は一覧表にて把握し、 個別に電子入力後、声かけのタイミング を変える等、検証しながら対応してい る。各居室のトイレや共有トイレの使用 は、個々の状況や介助内容に合わせて使 い分けている。排泄面での自立支援に向 けケアの統一に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操やレクリエーションを通じ、でき だけ体を動かすよう支援し、便秘解消の 働きかけを行っている。また、便秘に対 して下剤服用だけではなくこまめな水分 摂取を促すことや、必要に応じて牛乳、 オリゴ糖を摂取してもらうなど対応して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ご利用者の好みの湯温に合わせる等、配 慮した入浴を実施している。また、グ ループホームでの入浴が難しくなったご 入居者様には併設の特養の特殊浴槽を貸 り、入浴介助を行っている。	週2回を基本とし、希望により浴槽に浸 かる、またはシャワー浴としている。本 人の気分により翌日に変更する等、柔軟 に対応している。ゆず湯・しょうぶ湯な どで季節感を取り入れている。家庭的な 浴室での入浴が困難になった場合は、同 法人の特殊浴槽にて保清に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご利用者同士で過ごすことが できるようソファを設置するなど、 好きな場所で安心して休息でき るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	誤薬、服薬忘れ等がないよう 留意すると共に、症状の変化の 確認についても行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	制作活動や簡単な作業、敷地 内の散歩や移動販売で嗜好品を 選んでもらうなど、楽しみごと につながる支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ うに支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	本人の外出について、ご家族 の支援により外出・外泊を行っ ている。	移動販売や移動パン屋の日は 好きな物を選び購入している。 春は事業所の近くの桜並木を 歩き、1名ではあるがマツダ スタジアムで観戦と食事をした 例がある。ベランダで外気に 触れ、秋祭りの神輿を見る機 会もある。外出行事として紅 葉狩りを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	金銭管理が可能なご利用者は 、鍵付きの机で管理できるように している。その他のご利用者は 、施設がお金を立て替えるこ とで支援している。		

自己評価	外部評価	項目(わかば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っているご利用者については、充電や操作の支援を行っている。持っていないご利用者については、必要に応じて職員が電話をかけている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎にご利用者の作った作品を壁に飾るとともに、空間スペースの有効活用により、家庭的な雰囲気作りに努めている。	フロアでの体操後は、テレビ観賞・洗濯物畳み・職員による髭剃り・隣のユニットに行く等、思い思いに過ごしている。個々に合った机・椅子・車椅子にて安定した座位に配慮し、フロアでは壁面作品を相談しあって完成させるなど、居心地が良い空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースで独りになれる空間の配置はできかねているが、気のあったご利用者同士で過ごすスペースについては、ソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある使い慣れた物品を自由に持ち込んでいただき、ご利用者及びご家族が居心地よく過ごせるよう支援している。	利用開始前の居室を事前訪問し本人が居心地よく過ごせる居室作りの参考にしている。愛着のある物、使い慣れた物を持ち込み、個々に合わせた家具の配置で転倒予防を工夫している。居室のトイレまでに置き型手すりを固定したり、柱にクッション材を貼るなどの例がある。トイレ・洗面台の清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立で生活できるよう必要な場所に手すりを設置している。また、転倒リスクがある利用者がベッドから起き上がり移動する際に、床にセンサーマットを設置することで予防対策をしている。		

V アウトカム項目(わかば) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない